

植物と人々の博物館メールマガジン

第 127 号 2025 年 10 月 10 日発行

~~~~~



50 周年記念パーティは大盛会でした。

冒険探検にちなんで、プロヴ（ウズベキスタン）、ジェノベーゼ・パスタ（イタリア）、クスクス（モロッコ）、キビおこわ（沖縄波照間産）、ヒエかゆ（岩手二戸産）、カレー2点を作りました。試食者の評価はよかったので、味は良かったはずですが。由来を話す時間がなく、楽しんでいただけたか、心配です。今野さんや浅川さんに配膳していただいて、助かりました。ありがとうございました。

黒澤さん、菱井さん始め、準備くださった皆様、ご苦勞様でした。50 周年記念誌は日比野さん、黒澤さん、立川さんらの編集で、大層な労作になりました。一気に読みして、寄稿者それぞれの見方が 50 年の歴史を反映しており、面白かったです。

ツクツハウシも鳴き終わったのに、いまだに高温夏日ですが、日は短くなり、いくぶんは秋めいてきました。中秋の名月は曇りで見えませんでしたので、下の写真は早朝です。時は止まることがないからこそ、野川の河辺で流れる水面を見つめ、一時の流れを忘れることが要るのでしょう。

ジェーン・グドール博士が亡くなりました。1994 年頃だったか、JG 研究所日本に参加するように言われて、科学朝日に書評を書いたような記憶があります。子供を連れて、講演会にも行きました。一途に信念を貫いた立派な科学者です。

植物と人々の博物館は先達たちから引き継いだ社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公共財として公開し、ご活用願いたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業日：さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。今月は下旬、11 月は後半の予定です。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。

ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡ください。

### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、考古学、教育学などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業な

ど、

## ⑤その他

### ○報告

1) 50 周年記念企画の 1 つとして ZOOM 座談会をしました。その後、動画の視聴希望がありますので、公開します。 <http://www.ppmusee.org/event/pgl646.html#2>

### ○予定

- 1) 雑穀など展示準備
- 2) 書籍、標本の整理。
- 3) 電子書籍：

自選集第 5 巻概要版の改訂をしました。日英文要約版（第 5 巻雑穀の起原と伝播；第 VII 巻 “Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。同時に、自選集 III 『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI 『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

民族植物学ノオト第 19 号は 2025 年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。第 20 号は北海道での調査や二風谷冒険学校など、第 21 号はタイでの活動を集める予定（検討中）です。

第 18 号は下記です。 [http://www.ppmusee.org/\\_userdata/oto\\_No18.pdf](http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf)

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています（すでに 6 回登録済）。<https://warp.da.ndl.go.jp/waid/31424>

すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍（8000 冊）や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド 35mm など、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。環境学習・保全関係、インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策（財・森とむらの会の全資料）などに特色があります。

民族植物学関連の資料を先学からお預かりしてきた植物と人々の博物館を受け継いで、継承してほしいです。ヒトがこの人新世に暮らしていくのに、いずれ無くてはな

らない知識・知能を支える大切な生業の資料であることが世間にもわかります。木俣文庫は秋から年内には大方配架します。古典から新刊まで、良書が多くあります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 へとりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](#)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

上岩でも小菅でも、高齢の雑穀栽培者がいます。自立した誇り高い人生の姿に敬意を持ちます。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館のへのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、書架を購入できて、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 8) 推薦図書；内田樹 2025、沈む祖国を救うには、マガジンハウス新書 27、東京。

本書には近い考えが述べられていて、心強いです。世の中はゆっくり変わります。AI（人工知能）に依存しない自然知能 Nin（人、仁）を発育することが不易の暮らしに必要なことがいずれ理解されるでしょう。移行するためには「環境学習過程 ELP」が必要になります。

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

### ○報告

1) 50 周年記念誌発行 300 部、とても良いものができました。入手ご希望の方は、事務局にご連絡いただければ、送料込み 1500 円でお送りします。

## 2) 10月4日 50周年記念交流会 INCHと私～今までとこれから

50年間に関わった人々との思い出を語り合う会（10月4日～5日）。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、いろいろな環境保全、環境学習活動で、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、希望者は1泊2日を過ごしました。縁のあった皆様方が集まり、大盛会でした。

日時：2025年10月4日（土）～5日（日）、1泊2日、日帰り自由参加

場所：東京学芸大学彩色園など。環境教育研究センター。

内容：写真展、談話会、50年記念誌の発行。

<http://www.npo-inch.ppmusee.org>

3) 9月20日；Green Connection Tokyo 佐藤留美さんを学大農園に案内。こども遊パークの記念行事もあったので、見学しました。小金井市長も来ておいででした。

4) 9月29日；第4回はけの自然と暮らしのフォーラム、野川公園自然観察センターに参加しました。近隣の環境保全・学習関係者が60人ほど集まり、とても有力な可能性を持つ会合でした。ICUは広いですね、学大の倍はあります。野川流域のハケの環境保全、環境学習団体が集い、ネットワークを充実しようとしています。環境座談会・カフェと趣旨が合致しています。とても良い気運タイミングなのでしょう。

## ○予定

1) 10月15日：「環境学習過程 ELF」と日本の教育を考える打ち合わせ

2) 11月15日： 小金井市環境フォーラムへの協力、環境座談会で、贅田隼人さんが「小金井ちえのわ農学校／小菅冒険学校」について話題提供することになりました。参加者家族の皆様、チェーンチューの皆様からも、体験についてお話しいただけると、とても嬉しいです。

<https://www.millettimplic.net/university/inch50aniv/koganeiefo25fin.pdf>

3) 2026年に、ZOOMで公開座談会実施予定。

2) 植物と人々の博物館の再開内覧会。2026年3月予定。

## 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合

いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

自然や生業について現場で学ぶことを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。時代は移行していきます。第四紀人新世の自己家畜化に抗いたいです。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、第四紀人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（社会的共通財）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

### 小金井環境市民会議

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.milletimplic.net/weedlife/musashinoopark.html>

#### 小金井市環境フォーラム 11月14日～16日

- 1) 自然文化誌研究会も協力団体として、活動紹介展示、11月14日～16日、A0ポスター1枚を展示します。皆様からお貸しいただいた写真をまとめました。冒険学校、植物と人々の博物館、ちえのわ農学校、タイ環境学習、茶摘みの会などです。2025年の活動紹介をします。
- 2) 企画会議 10月7日10:00～。小金井市役所
- 3) 環境座談会・カフェに企画参加、11月15日15:00～17:00座談会、17:15～19:15カフェ。

#### ○協力団体の参加協力・後援名義依頼 小金井環境市民会議から

##### 1) 依頼状、添え書き

<https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/envtalkofferv4.pdf>

##### 2) 新潟国際情報大学異文化塾 豊穡なる主食の世界

<https://www.nuis.ac.jp/2025kouki-bunnkazyuku/>

11月1日、中東・北アフリカ地域の多様な主食 井堂有子（新潟国際情報大学教授）

11月8日、インドの雑穀と豆類が織りなすカラフルな世界 木俣美樹男（東京学芸大学名誉教授） 案

<http://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/25indiafoodcul.pdf>

11月22日、食卓の「こころ」～東南アジアにおけるお米のお話 ジュリアス・マルティネス（新潟国際情報大学准教授）

12月6日、ライムギとスパイスの世界～北欧・バルト、東欧、黒海沿岸に広がる豊かなパン食文化 リューデ・アンナ（新潟国際情報大学准教授）

~~~~~

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（メキシコ）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）、Weber（アメリカ）ほか

公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

自然文化誌研究会：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo_inch@yahoo.co.jp

伝統知顧問：守屋秋子（小菅村）、岡部良雄（丹波山村）

~~~~~

### 編集子の独り言：

趣味と職業が一致することは、仕事に際限がなく、大変だけれども、幸せなことだと、わが師阪本が言っていました。給料の多寡、費用対効果ばかりが論じられています。WLB とかで、働き過ぎないことが推奨されています。それは基本的にはよいことだと思います。人生に遊びがないのはつまりませんから。一方で、自然文化誌研究会のように、子どもたちや地域社会のために学生や市民が公共事業の環境保全、環境学習活動を、自費でかつ無償で働くことは、どう評価されるのでしょうか。ぼくは一生の友人をこの仕事（かつては兼職業）にも得られてうれしいです。

志は 24 時間働かないと実現はしません。眠りの中でも、研究のこと考えていて、夢の中でひらめきがあれば、今でも夜中に起きます。市民としての公共活動は何度も挫折的な状況乗り越えないとならず、行政の縄張りや世間の人々の我欲に阻まれて、ほとんどうまくはいかなかったです。それでも、短い人生で、信念、信条を貫き通して、末期に吾唯知足、自尊心により、せめて自己満足すれば幸せというものでしょう。子孫たちの希望のために、生きている限り諦めることはできません。

### 写真：

野川の花々 ツルボの大群落、コスモス、天使のトランペット、ジンジャーリリー





キンモクセイ、ギンモクセイ、中秋の名月





## 50 周年記念パーティ



## 第4回はけの自然とくらしのフォーラム

